

神奈川県立

2.18

文化資料館

かながわの

民俗芸能

第 54 号



堀山下上関あくまっぱらい保存会

神奈川県民俗芸能保存協会

目次

特集 第二十八回神奈川県民俗芸能大会

民俗芸能大会について

秦野市文化財保護委員 前場 芳雄 …… 3

出演と伝承

大島諏訪明神獅子舞保存会長 吉村 嘉幸 …… 5

麦打ち作業唄について

堀西仕事唄保存会長 内田 安雄 …… 6

民俗芸能大会に参加して

秦野ささら踊り保存会長 園田 美枝 …… 6

焼亡の舞のあゆみ

焼亡の舞保存会長 梅原 杉雄 …… 7

民俗芸能大会演目

民俗芸能大会アルバム …… 9

後継者育成について

— 実践例の紹介 —

やっばり人形が好き!

相模人形の学びの場からの報告

相模人形芝居研究家 林 美禰子 …… 12

ニュース・伝言板

…………… 16

民俗芸能大会について

前場 芳雄

秦野市の最大行事市民の日集い、十一月四日。第二十八回神奈川県民俗芸能大会・第十六回秦野市民俗芸能大会が秦野市文化会館で左記団体の協力、出演によって行われた。

厚木市の県立厚木東高等学校人形浄瑠璃部、伊勢原市の大山阿夫利神社倭舞・巫子舞保存会、相模原市の大島諏訪明神獅子舞保存会、湯河原町の焼亡の舞保存会、秦野市の秦野ささら踊り保存会、曾屋祭ばやし保存会、秦野市瓜生野盆踊り保存会、堀西仕事唄保存会、堀出下上関あくまっばらい保存会、八重山民俗舞踊研究会の以上十団体の出演により、落語家春風亭茶々丸、青年劇場石橋美智子両氏の司会で開会となった。

三番叟 舞台の無事と五穀豊穰、天下泰平を祈る祝儀舞踊として神聖視されている人形で開幕となった。相模人形芝居の発祥は各座各座異

なるが十八世紀の後半と思われ、昭和初期まで各地で演じられていた。厚木東高校では人形浄瑠璃部が結成され、高校としてはユニークな部活動である。生徒の皆さんの技術、演技はすばらしく、若い方によって文化遺産の保存ができることをうれしく感じた。

秦野ささら踊り 盆踊りの一種で七夕踊りの流れと小町踊りのものを合流させたもので、全国的に江戸時代に広まった踊りで、秦野市戸川地区では大正十一年頃までよく踊られていた。踊り子は十四才以下に限られ、歌い手は十五才から十八才までの処女に限られていた。新しい踊り子が入ってくるると非公開で夜、物置の中で練習が行われた。七夕の日がやってくるると屋外に出て練習効果を公開した。言い換えればこの日が踊りはじめである。盆踊りは七月十三日から十六日までの間、家々の庭で二列

横隊になり、歌い手は縁側の前に踊り子と向き合って歌い、踊り合った。新盆の家は二十一日まで踊った。この日が踊り納めとされていた。昭和五十年頃、民俗調査中、古久保谷ミヨさん(八十才位)から以上のような話を聞き、地元婦人会の協力を得て復活し、昭和五十二年、市無形民俗文化財の指定を受け、今日に至っている。現在保存会は七十七名の会員。後継者育成には盆踊りをはじめ、小学校の運動会に取り入れてもらうなどして育成に努め、五、六年生の児童によって踊られている。楽器はビンザサラ、小太鼓を用い、「扇踊り」、「ちょうちょ踊り」、「かえり踊り」の三部からなっている。

一、扇踊りを踊るとせ ソンライ 扇を買いに いせばらへ おいせばらの扇屋じや ヤレ 扇かれたとせ ソンライ 以下略

祭りばやし 秦野は祭り好きなどころで、以前は四月になると、あちらこちらで祭りばやしが行われていた。冬は寒稽古で各鎮守から太鼓の音が響いた。曾屋祭ばやし保存会は

曾屋神社の祭礼で演じる。大祭は夏祭で七月十日、祭当日は小田急電車は満員になったという話もある。市内で最もにぎわう祭りで、現在では夏休みに入った第一土、日曜日に行われている。大太鼓一、小太鼓二、三人一組で神輿の渡御の音楽で「宮聖殿」「自聖殿」「聖殿」の三曲からなっている。ほかに八幡太鼓などもあつたが消えつつある。笛(横笛)の後継者には一考あるようである。

瓜生野盆踊り 秦野盆地の東南に位置し弘法大師の伝説で名高い弘法山を背後にした温暖な瓜生野谷戸地区では、八月十四、十五日「百八松明」と言う仏教行事が行われる。地区の人たちは老若の区別なく松明作りをする。材料は麦わらで長さ二メートル、太さ三十センチ位のもので一軒一本を弘法山(千畳敷)に担ぎ上げる。日没時(午後七時)頃点火される。各自は松明を肩に担ぎ駆け降りてくる。約三十分ほどで龍法寺の門前に到着すると、松明を頭上高く、ぐるぐる振り回す。大きな輪を回して火の粉が散り、花火のように勇壮である。同時刻に盆踊会場で瓜生野盆踊りが始まるのである。明治二十

年代に一時中断したことがあった。ところがその当時伝染病が流行したので村人は「お精霊のたたり」と言い、すぐに復活したようだ。今日市内に残る盆踊り中に、ただ一つの伊勢首頭の系統をもつ盆踊りで、昭和五十二年市無形民俗文化財に指定されている。「手踊り」「手拭踊り」「扇踊り」の三部から構成されている。

歌詞は

一、めでたなあえ めでたの

若松さまよ エーヨイヨイ

庭に鶴亀 やんれ五葉の松

エーコレワイセー

以下略……

麦打唄 秦野地方では、煙草の創作として麦がたくさん栽培されていた。刈りあげた麦を庭に広げて竹竿の先に木の棒を取付けたもので、クルリと回ることからクルリと言われた。そのクルリ棒で打って麦穂を脱穀する。農仕事のうちでも重労働で、少しでも労を慰め元気づけることから唄われた。また即興で近村の大地主などの悪口も唄われたようである。

歌詞

一、京の御所じや火焰太鼓

わたしの畑は麦の穂が

二、曇らば曇れ箱根山
晴れたとてお江戸の宿は
見えやせぬ

以下略

唐臼唄 一味ちがった、ゆったりとした労働唄で、戦後は農機具の進歩によってほとんど唄われることはなくなった。

歌詞

一、臼の廻るように仕事が廻りや

蔵も立ちます七戸前

二、臼の元挽き女子にさせて

なにがつかかる女の役

以下略

倭舞・巫子舞 大山阿夫利神社の倭舞は春日系で明治初期に、奈良の春日大社から伝授され、神仏分離の後に特殊神事として祭祀された。神楽舞で先導の子弟によって、舞い継がれている。倭舞は四人立ちで十才から十五才までの男子で舞われる。楽器は和琴、大和笛、ヒチリキ、笏拍子、歌は笏拍子が歌う。巫子舞も十才から十五才の少女で、白の単衣錦に千早、朱の袴、下げ髪を奉書で巻き、前髪に花かざしをつけて舞う。

歌詞(倭舞)

一、歌とほつおやに 習いはべるか

遊ぶ子ら 歌にならひ
笛吹く子 誰が子らむ

(巫子舞)

一乃歌 若宮のみかげうつらふ

ます鏡 くもりあらせで

かへりみたまへ

あくまっぱらい 戦前は秦野盆地各所(道祖神組)では悪魔弘が行われていた。小正月の行事で、一月七日学校から帰った子供たちは、門松餅などの材料で道祖神を囲んで子供小屋を作る。小屋を本陣にして家々の悪魔を払い、福の神を呼び込むのである。「あくまっぱらい、舞い込め舞い込め福の神」と、唱える。太鼓を叩き、獅子頭、手製の紙の面をつけていた。当日出演者は七福神のお面をつけていた。太鼓は「とつけ団子」<団子>と叩く。

獅子舞 古くから知られる、相模原市北端相模川沿いの諏訪神社大祭に奉納される角兵衛流一人立ち三頭獅子舞で、伝授は詳かでないが、文化文政の頃、西多摩地方から伝来した江戸情調をもち、剣獅子、巻獅子、玉獅子の三頭を中心に鬼面、ヒョットコ面、ササラを持った道化役、うちわ、太い竹の杖をもった天狗など

が笛と唄に合せて舞う。昭和三十六年県指定文化財に指定された勇壮優美な舞であった。

焼亡の舞 歌詞は次のとおり。土肥に三つの光あり第一には八幡大菩薩、わが君を守り給ふ和光の光と覚えたり。第二にはわが君平家を打ち亡ぼし、一天四海を照し給う光なり。第三には実平より始めて、君に志ある人々の御恩によりて、子孫繁昌の光也、嬉しや水々、鳴るは滝の水、悦び開けて照したる土肥の光の貴さに世に立ちたまはば、土肥の杉山広げれば、緑の梢よもつきじ、代替<造らんに、更に歎きにあらじ、如かじ君を始めて万葉、我等も共に万葉とぞ舞たりれる(有明堂本)。治承四年八月、八百余年前、源氏再興のため源頼朝は土肥実平はじめ伊東祐親が三百余騎を従えて平家追討の軍進め、石橋山において平家大庭景親三千騎の大軍と戦い敗れていまの湯河原町鍛冶屋地区に遁れた。土肥の山中に五日間敵の様子を窺い、敵が引き揚げたので、下山したところ、火を放たれた家々が黒煙を上げているのを山中から眺めた実平が勇気づけ

に、頼朝の前で俄かに乱舞したことから焼亡の舞と呼ばれるようになった。

八重山民俗舞踊 秦野市内で吉浜久枝さんを中心として活動している。

八重山民俗舞踊は、沖縄県八重山地方の自然の美しさと厳しさの中で育まれ伝えられてきた民俗舞踊である。

出演と伝承

吉村嘉幸

当日の演目は「真栄節」「安里屋節」「トウバラマ」「棒踊り・太鼓踊り」の四演目で、ゆったりとした節の踊りや、力強い踊りなどが舞台いっぱいになり広がられた。

(秦野市文化財保護委員)

相模原の西北端、鎮守の祭礼(八月二十七日)に奉納舞として古くから伝承されている諏訪明神の獅子舞、その由来は詳でないが、文化文政の頃武蔵国多摩地方から伝来されたものといわれている。角兵衛流一人立ちの獅子三頭(剣獅子・巻獅子・玉獅子)が天狗の見守る下で、鬼面、岡崎の道化役とともに、笛・唄に合わせて、胸に抱えた太鼓を打ちながら舞うのであり、それは勇壮であり優美であること知られている。昭和三十三年市の無形文化財に、三十六年、県の無形民俗文化財に指定された。

近年民俗芸能への関心の高まりから、年間幾度かの出演依頼を受ける。有難いことであるが殆んどお断りしている。勿体つけているわけではないが、その理由は神社に奉納する舞として保存されているもので、興業性を持っていないことであり、舞手の殆どが勤め人であり時間が得がたく、メンバー全員がなかなか顔を揃えられないことである。第三の理由は経費の点である。出演のためには大小諸道具の運搬、関係者の輸送のために車の借上げを必要とするし、食糧費が加わることであって、

かなりの予算を必要とするのであるが、恥しながら当保存会にはそれ程の予算的余裕がないのである。今回の秦野での大会は親協会ともいべき県民俗芸能保存協会の主催事業であり、指名をいただいたことは光栄であり、出演すべき責任はあるものの、懸念されたのは相も変らず顔ぶれが揃うだろうか、輸送はどうかということであった。関係者協議の結果、メンバーは揃うことが見込まれたこと、問題の輸送については、教育委員会にお願いし特別のからいをいただけることになったことでの出演確定であった。しかし当日を迎えて三頭の獅子のうち二頭の舞手が都合悪くなったということに急遽O・Bを動員しての出演ということになって、まさに責任者冷汗の思いをする場面に出来て楽屋裏の苦悩であった。

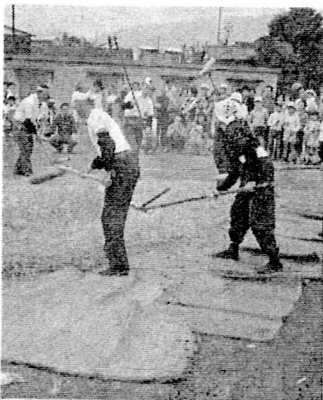
大会当日は好天気恵まれ、会場は自然の景観、誠に素晴らしい文化会館であった上に、たまたま秦野の市民の日とあって、祭りの行事が行われた会場には多くの展示物等もあって秦野地方に伝わる民俗芸能とともに鑑賞する機会を得たことは幸せであった。最後に、大会に臨んで思うことは今更改めて口にするまでもあるまいが、古くから技能や芸事は師匠の厳しい指導の下で修業して初めて一人前になれるといわれるし、先輩の「一挙手一投足について厳しく注意され、繰り返し練習させられた」との懐古話を聞くにつけて、伝統芸能を継承することの難しさである。封建の時代ならいさ知らず、民主・自由主義の時代、往時を追慕してみても仕方のないことではあるが、伝統の芸能をそれなりに正しく伝承させることのための指導、その難しさを痛感するのである。加えて、学業に精出し、受験に追われ、職場に専念する青少年に頼らざるを得ない後継者の問題については、深刻さがあり悩み多いことである。各地の民俗芸能保存会に於ても凡そ同様の苦勞をしていることであろうことを推察するに、各保存会毎の努力のみで伝統芸能は果して維持できるのであろうか……と思うのである。(大島諏訪明神獅子舞保存会長)

麦打ち作業唄について

内田 安雄

私達の住む秦野は、国定公園丹沢山のふもとに位置していて昔から秦野平野とも言われて畑の多い農業の地として知られ、農産物には有名な秦野煙草を始め、落花生、菜種、大麦、小麦、ビール麦など色々の麦が耕作されていました。この中でも大麦と小麦は主食として用いられていたものです。

毎年秋には種を蒔き、翌年の四月頃、青々とした麦畑の間に菜種の花



があちこちと咲き盛った時は、秦野平野は何とも言えないほどの景色を見る事ができました。
やがて六月の末になると麦は畑一面が黄色く色どり、実の入りを見ながら各農家では刈取りが始まります。刈取られた麦は畑にそのまま干され、四、五日天日で乾かしてから各家々の物置、又はその他の建物の軒先などに運び込まれ、いよいよ脱穀に取りかかるのですが、大きな農家では一日に仕事を終わらせるためには大変な作業ですので、近所の人々で助け合いをして、少なくとも七、八人の人足を揃えて本格的な作業にかかるとのことです。

前もって準備しておいた四本足のスノコのような台で麦を打ちつけて麦の穂と穀とを分けました。そうして打ち落した穂を地面に広げて、男女七、八人の人足を揃えていよいよ

本番の麦打ち作業唄が始まります。この時はクルリと言う、くるくると回る棒を持ち、大きな輪をつくり一同に棒を振りながら、まずその中の一人が囃子を入れます。「ハァー、ドッチョイ、く」と調子を合わせて、すぐ他の人から唄が出ます。

「曇らば曇れ箱根山、晴れたとて、お江戸の宿は見えやせぬ」などと唄いながら二、三十分打っては、ひと休みします。

民俗芸能大会に参加して

園田 美枝

第二十八回神奈川県、第十六回秦野市民俗芸能大会が平成三年十一月四日、豊かな自然に恵まれ、豊かさを実感できるふるさとを目指し、秦野市文化会館で、県教育委員会、秦野市教育委員会、県民俗芸能保存協会の共催の下に開催されました。時代の推移により急激な社会の中に衰減に瀕してしまいましたが、この大会に出演させていただきました。これらの民俗行事、民俗芸能を伝承してきた人が再びその価値を認識し、またこれらの周囲からも民俗行事、民俗芸能を支持し、応援してくれている人々も

(堀西仕事唄保存会長)

その真価を理解していただき、両者の間に、これらの行事、芸能を正しく伝承しようという気運が生じてこれから民俗行事、民俗芸能の保存に向けて意欲をあらたにすると共に責任を感じました。寿式の三番叟の幕開けにて舞台の無事と五穀豊穡、天下泰平を祈って舞いおさめでしたが、部活動として末長く活躍していただくようお祈りする気持で一杯でした。

次いで出演させていただきましたのが会場市の秦野ささら踊りでした。江戸時代以前から全国的に存在しており、戸川地方では大正十一年頃まで踊られておりましたが戦争、関東大震災で中断されていました。その後昭和五十一年に市の民俗調査が行なわれ、伝承者が見つかったことにより復活いたしました。

ささらとは、ビンザサラといって巾約3cm、長さ20cmの竹の板二十枚程の上端に紐を通し、両端を持ち音を出し、その名をとって「ささら踊り」といいます。盆踊りの一種で七夕踊りの流れと、小町踊りの流れが合流したもので現在の盆踊りと違い女性中心に各戸を踊って歩き、踊り手は十四才以下の子供、唄い手は

十五才以上の未婚の娘、服装はゆかたでたすきがけ、尻はしよりで踊ったとのことです。現在の会員数七十名程で市の文化事業、盆踊り、市民体育祭等積極的に参加協力をすると共に北小学校の運動会には、五、六年生と保存会の会員と一緒に踊り地域の連帯感を深めるとともに後継者の育成を図っております。

当日の出演の中では大山阿夫利神社の倭舞、巫子舞は明治初期に奈良春日大社が伝習を許された神楽舞のうち二曲、しろがねの曲、みやびとの曲を奉奏していただき、中世のおもかげを伝えるが如き優雅の舞でした。神殿の前にもいる気分ひたり深く頭の下がる思いで見せていただきました。

第二部最後の八重山民俗舞踊研究会が秦野市河原町にあるとは知らず、テレビ等では沖繩舞踊は見ますが目の前の舞台で見学させていただき安里屋ユンタを踊った若い時代もございましたのですっかり沖繩にでも居ます気分になり、楽しい夢のようなひとときをすごさせていただきました。何はともあれ二十八回民俗芸能大会に参加させていただき、芸能の一

焼亡の舞のあゆみ

梅原 杉雄

今を去る八百十一年の昔、治承四年八月二十三日源頼朝は石橋山に源氏再興、平家追討の旗を挙げた。土肥実平を始め三百騎を従えて石橋山に於いて敵の大將大庭景親三千余騎と戦う。何しろ十対一の多勢に無勢、源氏に利あらず、翌二十四日暁方即却に移り、追いつがる敵勢を打ち払いつつ土肥(現在の湯河原町)の杉山に逃れた。敵の目につくことを恐れ、わずか七騎に分かれた主従は巖窟にかくれ、大木の洞にひそみ、時には地蔵堂に、あるいは箱根権現にかくまわれるなどして数ヶ日。この間平家方は頼朝を捕えんと木の根、草の根を分け、全山くまなく探

しまわったものの、どうしても頼朝を捕えることができなかった。それは頼朝が人知れず自害し果てたものに違いないと、捜索を断念して山を下り、かこみを解いて引揚げた。この様子をひそかにうかがっていた実平はようやく姿をあらわし山上より人里を望むと土肥の館、家々が燃えている。これは平家方の伊東祐親の軍勢が伊東へ引き揚げるとき火を放ったものであった。これを眺めた実平、落胆するどころか、喜び勇んで舞を踊ったのである。源平盛衰記に記されている。土肥に三つの光りあり第一に八幡大菩薩、吾が君を守り給う和光の光りと覚えたり以下略

源氏に利あらず、翌二十四日暁方即却に移り、追いつがる敵勢を打ち払いつつ土肥(現在の湯河原町)の杉山に逃れた。敵の目につくことを恐れ、わずか七騎に分かれた主従は巖窟にかくれ、大木の洞にひそみ、時には地蔵堂に、あるいは箱根権現にかくまわれるなどして数ヶ日。この間平家方は頼朝を捕えんと木の根、草の根を分け、全山くまなく探

第二十八回 神奈川県民俗芸能大会 演目
第十六回 秦野市民俗芸能大会

- | | |
|--------|--|
| 第一 第一部 | 1 三番 叟
県立厚木東高等学校 人形浄瑠璃部 |
| | 2 秦野ささら踊り「扇踊り」「蝶々踊り」「かえる踊り」
秦野ささら踊り保存会 |
| | 3 祭ばやし「宮聖殿」「秦野祭ばやし太鼓」「自聖殿」
曾屋祭ばやし保存会 |
| | 4 瓜生野盆踊り
秦野市瓜野盆踊り保存会 |
| | 5 「麦打唄」、「唐臼唄」
堀西仕事唄保存会 |
| | 6 「しろがねの曲」「宮人の曲」
大山阿夫利神社倭舞・巫子舞保存会
(休憩) |
| 第二 第二部 | 7 あくまっぱらい
堀山下上関あくまっぱらい保存会 |
| | 8 獅子舞
大島諏訪明神獅子舞保存会 |
| | 9 焼亡 <small>じまろ</small> の舞
焼亡の舞保存会 |
| | 10 八重山民俗舞踊
八重山民俗舞踊研究会 |

す。
昭和三十二年七月七日、東京十二チャンネルで町ぐるみワイドショーが行われた。湯河原町と調布市との対決で湯河原町では出演種目に焼亡の舞を出演することに決まり、毎日猛練習し、いよいよ当日を迎えた。対戦の結果として湯河原町四十二対三十八で湯河原町が優勝した。湯河原町の郷土芸能として鎧一式を調達していつでも舞を舞うように観光課で保管しているようにした。

昭和三十九年三月五日七騎堂完成に伴い源頼朝、土肥実平、土屋三郎、岡崎四郎義実、田代冠者、安達藤丸郎、新開次郎ら七騎の木像を本堂から七騎堂に遷座式を高杉町長を始め土肥会役員出席のもと盛大に行われた。木像を一人、一人が抱え行進する処をNHKから録画取材し翌日昼のニュースで全国に放映された。その後静岡岡三島神社大祭と神奈川県鎌倉鶴ヶ岡八幡宮の舞殿に於て毎年焼亡の舞を奉納しつつ今日を迎えた。また観光キャンペーンで昭和五十八年九月十八日にはJR名古屋駅前広場に於て焼亡の舞を踊って、名古屋市民にぜひ湯河原温泉に秋の行楽

をお願いしますと呼びかけ、観光宣伝に一役買った。
私たちが過去一番印象に残ったことは昭和六十年六月二十一日米国ハワイに於て日本人移民百周年記念式典に当たり神奈川県を代表して参加したときのことである。ホノルルの大通りを鎧を着て一時間にわたるパレードは美事であった。外人のカメラの放列を受け、外人と一緒に日本女性と写真をとって、さぞ満足であったことであろう。パレードが終わってマッキンレー高校で焼亡の舞を披露しアメリカ人に琵琶の音を聞かせてやったら二世三世が喜んでワンドフルと大変喜んでくれた。翌日ハワイ州知事室を表敬訪問し、ジョン・アリヨシ知事に神奈川県長州知事のメッセージを贈り大任を果たし日米親善の役目を果たして帰国した。湯河原町ではフェスティバルを毎年行うことを教育委員会が決めたので、三月一日に観光会館で開くことになり益々勉強しなければならぬ。

(焼亡の舞保存会長)

民俗芸能大会アルバム



▶ 県立厚木高等学校 人形浄瑠璃部 ▶



▶ 秦野ささら踊り保存会 ▶



▼ 曾屋祭ばやし保存会 ▶

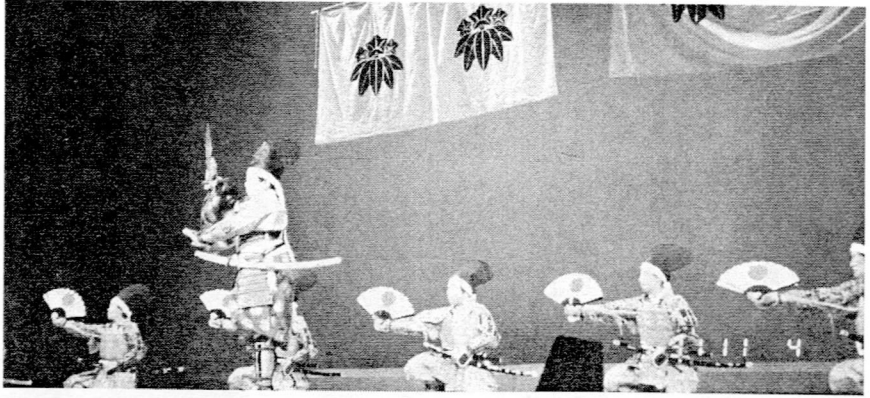




◀ 堀山下上関あくまっぱらい保存会



◀ 大島諏訪明神獅子舞保存会



◀ 焼亡の舞保存会



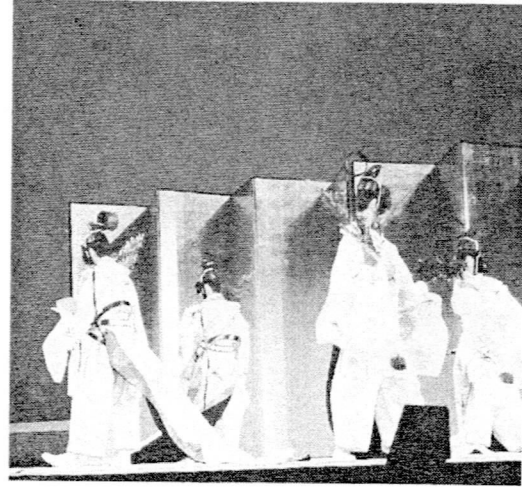
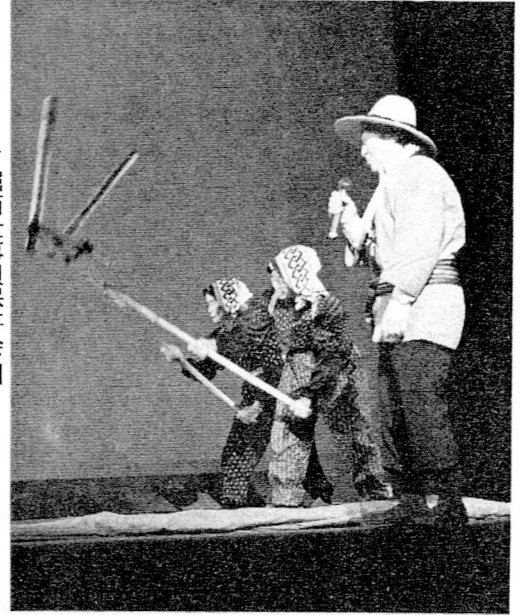
◀ 八重山民俗舞踊研究会



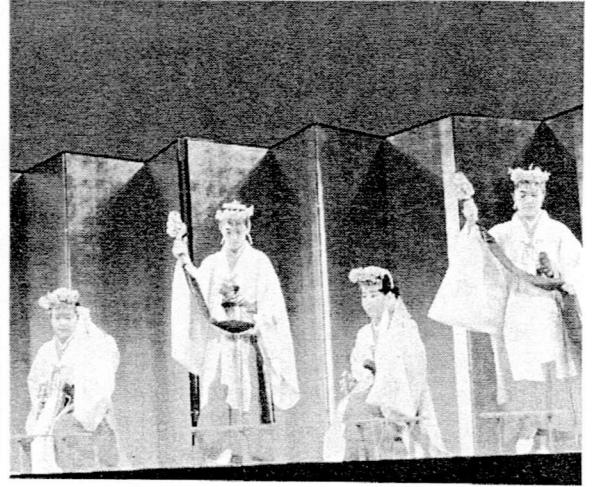
◀ 秦野市瓜生野盆踊り保存会



▶ 堀西仕事唄保存会



▶ 大山阿夫利神社倭舞・巫子舞保存会



後継者育成について

実践例の紹介

やっぱり人形が好き！

— 相模人形の学びの場からの報告 —

林 美禰子

私は現在、小田原市の「下中座相模人形教室」、南足柄市の「足柄座後継者育成講座」、県立二宮高校の「相模人形部」、県立足柄高校の「相模人形芝居研究会」の四カ所で、たくさんの素晴らしい仲間と共に相模人形を学んでいます。

下段の写真は二百五十年の歴史をもち、国指定無形民俗文化財となっている相模人形です。今年九十才となられた下中座の小沢孝蔵さんをはじめ、長い芸歴を持つ先輩方が元気に頑張っておられます。しかし、座員の高齢化・少数は、登場人物の多い演目が上演されにくいなど、いくつかの問題点が指摘されるようになってきました。そこで、後継者育成の様々な試みがなされているのです。

私が直接かかわっております四カ



一つの芝居を、まがりなりにも仕上げ、舞台にかけることを目標としています。全員が心を一つにして舞台を作り上げることができた時、感激に体が震えます。一年でステージへを実現するために、いくつかの工夫をしています。

まず、第一が台本です。戦前まで義太夫は身近な音曲でしたが、今は二宮高校生の言葉を借りれば「エーッ。これが日本語？ 英語より難しい！」しろものです。

増補生写朝顔話

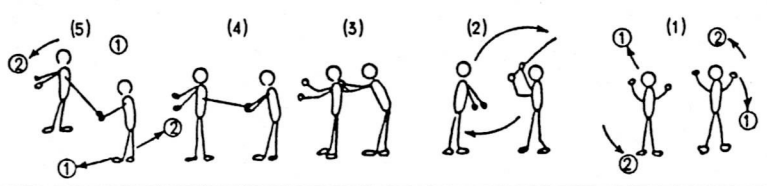
宿屋の段 台本より抜粋

いつかな厭は
少しもいや
がらない
今念
一念をこめ
た力

街道一
東海道で一
番だという意
義を乱して
落ちてくるよ
うだと豪雨を
たとえていう
はたながみ
雷鳴

り出し この暗いに一人は危ない危ない」「イエイエ縦へ死んでも厭
ひはせぬ」「ササササそれはそれで盲目の身で危ない危ない」「イ
エイエ放して下さい」「是はしたり危ないと言ふに」「イヤイヤ放
つて下さい、朝顔につき
後右衛門は下手から両手を上げ 後から朝顔の帯に手を
はいて、身をたて直し
はいつながら
はいつながら
はいつながら

名に高き街道一の大井川 篠を乱して降る雨に打交りなる霹靂 張
り落つる水音は物凄くもまた、すさまじき 夫を慕ふ念力に道の難
所も見えぬ目も 厭はぬ深雪がこけつ転びつ やうやう爰に川の傍



下段の台本の抜粋をご覧ください。
目と耳の両方から義太夫が追えるように、大きめの字で本文を書きます。上段には難しい言葉の説明を入れ、辞書を引かなくとも大体の意味がわかるようにしてあります。大きく間をあけて書いた本文の行間に、人形の振りを書きこみます。人形の振りには、相模人形中興の恩人・西川伊左衛門に直接教えを受けた小沢孝蔵さんのご教示によっています。伊左衛門の直弟子は、現在では小沢孝蔵さん唯一人となってしまいました。四十近くある相模人形独特の型については、行間に型の名を入れ、下段に詳しく書きこみます。この「相模人形の型」は、下中座でも足柄座でも、ビデオに記録してありますから、ビデオによる学習も可能です。人形同志のからみは、文字だけではわかりにくい場合があります。下段に図を入れて補助とします。人形が大きく進んだり退いたりして、人形配置が変わる時には、その動線を下段に図で示します。

台本と義太夫のテープとが、学習者一人ひとりの手元にありますと、芝居内容については、独習が可能に

なりません。

次に、三人遣いの人形芝居についての基礎知識を勉強します。時代物と世話者との違い、相模人形でよく演じられる演目、また、外題・太夫床・床本・見合など基本的な芝居用語の読み方と意味、上手・下手・手摺・下舞台・二重・屋体など稽古に必要な最低限の舞台用語などを、一通り学びます。口上も、全員で声を張り上げて練習します。すべてが新鮮な経験で、皆さんの瞳が輝いています。

人形芝居の基礎知識の勉強と並行して、人形の遣い方の基礎を学びます。立つ・座る・歩く・立膝をする・見る・泣く・笑う・指す・手を合わす。おじぎをするなどを、実際に三人で一組になって練習します。足、特に女形の足の遣い方を中心に、二カ月程かけます。一年でステージへ」ということになり、この段階で、基礎の基礎をしっかりと固めておきたいところです。

そして、いよいよ、義太夫にのせて人形を遣います。区切りの良いところまで、ともかくも義太夫に合わせるのですが、何しろ首に気がいく

と右手が動かずといった具合ですが、「何が何だかわからない」というのが、最初の感想ではないでしょうか。

人形の重さと、遣うことの難しさ、に驚きの声があがる頃を見計らって、一区切りずつ、自分たち自身で踊ってみてもらって、大体の感じをつかんでももらいます。特に左遣いや足遣いにとって、人形全体の姿がわかるという意味で、大事なところでは、ポイントになる「型」の部分では、

「型」の動き、決った時の姿勢はもちろんですが、特に意識して、その型の持つ意味を伝えようと努力しています。たとえば、「かべなで」という型は、「世間一般」を表し、「うちみ」は自分とかかわりの深い、「夫」や「父母」などを表現する。同じ「うちみ」でも、役の年齢や性別、身分などによってどう変化するか、説明できる部分については、できる限り労をいとわず説明しようという心がけているのです。

演ずる人自身にどうしたらより良い表現ができるか、美しく見えるかを考えて遣ってほしいと思っ

▼ 稽古風景



▲ 稽古風景

り良い表現をめざしたいと思っ

本来、三人遣いの人形は主遣いの合図、それも見物人の気づかぬくらい微妙な合図によって、左遣い、足遣いが左や足を遣うのです。主遣いがうまくできなかつたり、左遣いや足遣いが合図を読みとれなかつたりすると、もう減茶苦茶になってしま

(相模人形芝居研究家)

礎技術は、手取り、足取りで、伝えられるものは全て伝えたいと思うのです。その上で、良い芝居、巧い役者を見て「芸を盗んで」ほしい。手が小さい人・大きい人、背の高い人・低い人、体の柔かい人・硬い人それぞれの個性を活かすために、

個性に合った遣い方の工夫を、共に考えていきたいと思っ

最終的に、何よりも大切にしたいのは、参加して下さる方々が、「人形をやってみて良かった!」と喜んで下さるような雰囲気づくりです。忙しい日常の暮しの中で、できる限り時間をとろうと努めたくなるように嬉しいのです。そして、どうしても都合がつかなくて休みがちなんも、フワッと包みこめる暖かさが、グループにあると最高の嬉しさです。「人形が好き!!」という仲間がいて共に歩める幸せを味わっていただけたらと、いつも願っています。相模人形を一心に学んでいると、それだけで世界が広がります。人形を通して、今までの友人と新たなきずなができ、新しい出逢いにも恵まれます。これからも「人形が好き!!」な仲間の輪を広げ、手をとりあって向上していきたいと思っ

ニュース・伝言板

新規会員募集

民俗芸能を実際に行っている人、また民俗芸能に興味をお持ちの人等協会では、多くの方々への入会をお待ちしております。会員の皆様も勧誘に御協力下さい。

入会ご希望の方は、事務局にお問合せ下さい。

会費の納入について

当協会の事業の円滑な運営のためには、会員の皆様の会費納入についての御協力が是非とも必要です。

平成三年度から会費が値上げされたことは既にお知らせいたしましたとおりですので未納の方は至急納入下さるようお願いいたします。(年額一口個人千五百円、団体三千円)

協会行事報告 (上半期分)

○第十九回相模人形芝居大会

期 日 平成3年7月7日(日)
場 所 平塚市中央公民館ホール
概 要 五座が一堂に会して、日頃の練習の成果を発表した。平塚七夕まつり開催中の催しとして、昨年度同様に実施され、各座員が熱演した。

また、当日は乙女文楽の部として県立高浜高校乙女文楽部による三番叟、湘南座による傾城阿波之鳴門、巡礼唄之段の公演も合せて行われた。

相模人形芝居の演目は次のとおり。

壺坂靈験記、山より谷底まで、足柄座・御所桜堀河夜討、弁慶上使之段(上段) 林座・(下段) 長谷座・鎌倉三代記、三浦別之段、下中座・絵本太功記、尼ヶ崎之段、前鳥座。

○川崎稲毛神社の「宮座式」見学会

期 日 平成3年8月2日(金)

場 所 川崎稲毛神社(川崎市)
概 要 「宮座式」は、まだ専任の神職が配置されなかったころに確立された神事の執行方法であり、関東では、極めて珍しいものである。平成三年二月八日

付け県選無形民俗文化財。祭り全体の概要をビデオで見たい後に行事を見学し、神社関係者を交えて懇談会も行われた。

○第十五回相模ささら踊り大会

期 日 平成3年8月4日(日)
場 所 藤沢市秋葉台文化体育館
概 要 足柄・綾瀬・葛原・愛甲・秦野・海老名・長谷・遠藤の八

保存会が各々のささら踊りを披露し交流を深めた。

編集後記

本号は第二十八回神奈川県民俗芸能大会の特集号をお届けします。

今回の大会は神奈川県教育委員会、秦野市教育委員会、当協会の主催で行われ、盛況のうちに幕を閉じまし

た。出演者をはじめ、舞台をささえて下さった他数のスタッフ、早くから開場を待っていて下さった観客の方々に心より感謝いたします。またお忙しい中、原稿をお寄せいただきました皆様にお礼申し上げます。

なお、本号では特集のほか、後継者育成に携わっている方から実践のようすをご執筆いただき、一例として皆様にご紹介いたしました。編集部では会員の方々からの投稿をお待ちしていますので、日頃の活動状況等、情報交換の場としてもご利用くださるなど、お気軽にお寄せください。

「かながわの民俗芸能」第54号
平成3年12月25日発行

編集 横浜市中区日本大通り33
神奈川県教育庁生涯学習部
文化財保護課内
神奈川県民俗芸能保存協会
事務局 ☎(20)一一一一代
発行 神奈川県民俗芸能保存協会
印刷 株式会社 港栄印刷
(☎)33(八八)一四